

# MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

MPM

2016  
SPRING  
SUMMER  
VOL.5

むさしのパークライフマガジン

YOUR PARK LIFE : Park Life × はげ

FOCUS : 1dayトリップ : はげ × 公園

ESSAY : ヴィンテージのピクニックカップ

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きつと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。



都立武蔵野公園「くじら山」

# Park Life

×

## はけ

太古の昔、川の流れが固い台地をけずることであまれた「国分寺崖線(はけ)」。

そこには水と緑が溢れ、生きものが憩い、その恩恵とともに人が暮らしてきました。

そんな長い時間とはけが育んだ、武蔵野の3つの公園の風景や魅力を紹介します。

### ふうけいのはなし

武蔵野公園の西側に位置するくじら山は、広いはらっぱに浮かぶくじらのように見えることから、いつしか子どもたちがそう呼ぶようになりました。その標高53.3メートルの山頂からは「はけ」を眺めることができます。

4月、二十四節季で「清明」にあたるこの季節は、はけを覆う緑色の種類の多さに驚かされます。黄緑、淡い銀緑、柔らかなピンク、くすんだ色、鮮やかな色…急こう配の地形によって開発をまめがれて残った武蔵野の原風景。それはまるで大きな腕でやさしく崖下のまちをつつみ、くじら山や野川で遊ぶ子どもたちを見守っているようです。

都立武蔵野公園「くじら山山頂から見たはけ」

## みずのはなし

はげの上の台地にしみ込み、地層によってろ過された雨水は、美しい湧き水となって姿をあらわします。はげの恵みである水は、ときには人々の信仰の場として、田畑を潤す用水として、生きものが憩う水場として、はげの暮らしと結びついてきました。この周辺を歩くと、そんな水の気配をいたるところで感じることができるのです。

野川公園北側のわき水広場では、はげから湧き出た自然の水にふれることができます。その豊かな水は野川に流れ込み、天然の水の遊び場をつくりだします。春から夏にかけては、木々が心地よい木陰をつくり、プールよりも冷たい水にはしゃぐ、子どもたちの歓声が響きます。

都立野川公園「わき水広場」

## しぜんのはなし

しっとりとしたはげの湿地環境は、多くの生きものが集まる生態系を育みました。豊かな水にあふれた木洩れ日の下では、今でも武蔵野本来の植生がひっそりと息づき、ニホンアカガエルやホトケドジョウなど、湿地の生きものが暮らしています。

武蔵野公園に群生するニンソウは、木洩れ日のさす明るい森と、湿地に恵まれたはげを象徴する植物。その小さな白い花は、はげの春のおとずれを告げてくれます。

都立武蔵野公園「ニンソウ群生地」



## まちのはなし

はげのそばには古くから、水の恩恵をうけた人々の豊かな営みがありました。そこには国府が置かれ、また風水でいう四神に守られる土地であることから、武蔵国分寺造営の地として選ばれたとも聞きます。人々ははげの地形や野川の水と上手につきあいながら暮らし、まちを形成してきたのです。

今でもはげ周辺は、自然と暮らしとがちょうどよくとけ合ったまち。そこには地域とつながりを持つお店や、個性的な作品をつくる人たちが多く暮らし、定期的に市やイベントなどを開催しています。武蔵国分寺公園で開催されるぶんぶんウォークは、はげに暮らす人々、公園、まちが一体となったイベント。ここではやさしい音楽とおいしい食べ物、はげの自然を感じることができる心地のいい時間が流れています。

都立武蔵国分寺公園「ぶんぶんウォーク」



お鷹の道・真姿の池湧水群

都立武蔵国分寺公園の南側に位置する「お鷹の道」は江戸時代、尾張徳川家の御鷹場に指定されていたことから名付けられました。その周辺には真姿の池をはじめとする崖線下の湧水群が残り、今もはげから湧き出た豊かな水を楽しむことができます。



都立武蔵国分寺公園 野鳥の森

はげの台地の上に位置する公園には明るい雑木林が残り、はげからしみ出す湧水を眺めることができます。エナガ、メジロなどが訪れる野鳥の森ではパークレンジャーによるガイドウォーク等、はげの自然や生きものに触れ合うイベントを楽しむことができます。



都立武蔵野公園 キツネノカミソリ群生地

はげ下に位置する公園のはらばからは、はげが一望でき、武蔵野の原風景を感じることができます。また、斜面林にはキツネノカミソリやフデリンドウなど、はげの湿地環境が育んだ野草が生息しています。



都立野川公園 自然観察園

地下水が湧き出し、四季折々の野草や野鳥、昆虫などが見られ自然の宝庫となっている自然観察園。この環境だからこそ出会うことのできる生きものたちが公園のボランティアの手によって大切に保全されています。

## はげと公園のはなし

はげ(国分寺崖線)は、古多摩川によって武蔵野台地が浸食されてできた河岸段丘のこと。武蔵村山市から大田区まで、東京を縦断するよりのびる緑の帯には、昔から豊かな水が湧き、特有の自然環境が育まれてきました。はげに暮らす人々も、はげの自然や国分寺を源流とする野川の水を利用しながら農業を営んできました。自然と人の暮らしとが重なり合う、そんなふうにして武蔵野の風景は生まれてきたのです。

しかし明治以降は、大規模な開発により、緑地が分断され湧き水が枯渇するなど、はげの環境は大きく変化しました。今は開発をまねがれた斜面林や真姿の池などの湧水群、はげの地形や環境を活かしてつくられた公園や庭園等が武蔵野の原風景を残しています。

私たちが管理する3つの都立公園もはげを身近に感じることもできる場所です。武蔵国分寺公園の南端は、はげの

斜面になっており、シラカシなどの常緑樹が深く静かな森をつくっています。武蔵野公園ははげの南側。そこには野川の恩恵をうけた広いはらばと多様な樹木や野草が生息する林が残っています。そのまま野川沿いに東へ進むと野川公園に入り、崖線の湿地帯を保全した自然観察園やわき水広場など、はげの自然を直に堪能できます。どの公園もはげが長い時間をかけて育んできた生きた自然—湿潤な環境に適応した樹木や、野鳥が暮らす茂み、貴重な野草の群生地—と積極的に関わり合いながら、保全活動や環境づくり、イベントに取り組んでいます。

人の暮らし、まちの様子は変化しても、はげの自然を愛する人や地域がつながる場所として、公園の中に武蔵野の風景が広がっているのです。そんなことを考えると、いつも歩いている坂道や公園の風景が少し違ってみえるかもしれませんね。



参照：東京都都市整備局「国分寺崖線景観基本軸」

# 1dayトリップ：はげ×公園

武蔵野の風景や面影が残る小金井エリア。街の中に、はげによって育まれた自然やひとの暮らしをみつけることができます。今回は、はげとつながる3公園のうち2公園をめぐる1dayトリップルートを紹介します。

## 1dayトリップルート

- ① 東小金井駅
- ② 新小金井駅
- ③ 二枚橋
- ④ 野川公園
- ⑤ 武蔵野公園
- ⑥ はげの森美術館
- ⑦ 小金井神社
- ⑧ 金蔵院
- ⑨ 黄金の水
- ⑩ 武蔵小金井駅

目安時間：3時間



**④ 都立野川公園** 自然観察園・自然観察センター  
野川がゆったりと流れる自然豊かな公園。園内にははげに育まれた自然を残す自然観察園や武蔵野の自然が学べる自然観察センターがあり、パークレンジャーが詳しく解説もしてくれます。  
TEL:0422-31-9033 月曜休(祝日の場合翌日休)



**⑤ 都立武蔵野公園**  
野川に沿って残る草原や雑木林が美しい、野趣に富んだ公園。園内にはソメイヨシノやサトザクラを中心に40種約900本の桜があり、春の公園を美しく彩っています。TEL:042-361-6861 年末年始休み24時間開放



**⑥ 中村研一記念 小金井市立はげの森美術館**  
昭和期に活躍した洋画家・中村研一のアトリエ跡にできた美術館。隣接する庭ははげの地形や湧き水の池をそのまま生かした美術の森となっています。TEL:042-384-9800 月曜休(祝日の場合翌日休) 10:00~17:00(入館は16:30まで)



監修：一般社団法人武蔵野コッツウォルズ

緑豊かな武蔵野を広域に回遊する「森の地図スタンプラリー」主催団体のひとつで、イベントを立案、運営。地域を自転車でもぐるガイドツアーも行っている。

## ヴィンテージのピクニックカップ

Episode.5

この日は原っぱの端にたくさんのテントが並んでいた。年に何度かの「はけの美しい朝市」である。地域の気の利いたカフェや、アンティークショップが店を出している。去年買った瓶詰め塩レモンをまた買う。中学生くらいの女の子

「すてきね」  
彼女は、僕の手をクイッと握った。

「ね、だから僕はここが好きなの。」  
何万年も昔、多摩川が削った崖から水が湧き、集まって野川になる。野川は幸せな川だ。原っぱの中を流れていける。そして豊かな緑の崖線が、ずっと傍らにいてくれる。

「見渡すかぎり、つていうのはいいね。」  
と、僕はいった。  
「どこまでも続く方がいいわ。限り、は嫌。」  
彼女らしい応えだ。  
昔、奥多摩から多摩川が流れ出して、それが南へ北へと流れを変えた。川が流れた一番南から北までの間が東京だ。荒川が動いた跡が埼玉。神奈川は相模川。それがなくて、ただ地図の上の線だけだったらつまらない。でもここに立つと東京の地形は水が作ったということが、分かる気がするのだ。

「武蔵野公園のくじら山からは、とても広い原っぱが見渡せる。草の間に野川が光り、国分寺崖線は淡い芽吹き色に膨らんでいた。」  
「見渡すかぎり、つていうのはいいね。」  
と、僕はいった。  
「どこまでも続く方がいいわ。限り、は嫌。」  
彼女らしい応えだ。

「写真屋さんよ。これは野外スタジオね。」  
原っぱを背に木の椅子に座り、ふたりに珈琲を飲んでいるところを撮ってもらった。  
またくじら山へ登る。  
広い緑のあちこちに人がいる。子どもは走り、大人はゆったり歩いている。さつきから遠くでぼつりと止まったままの人は、何を見ているのだろうか？  
人と緑がひとつの絵になっている。  
野川が緑と緑を縫い合わせてゆく。  
武蔵野の春がどこまでも続いている。

蜂須賀 公之 はちすか まさゆき  
東京の武蔵野地域に生まれ、自然をこよなく愛する。都立公園のパークレンジャー、インタープリターとして活躍する傍ら、写真、執筆などの活動は多岐にわたる。

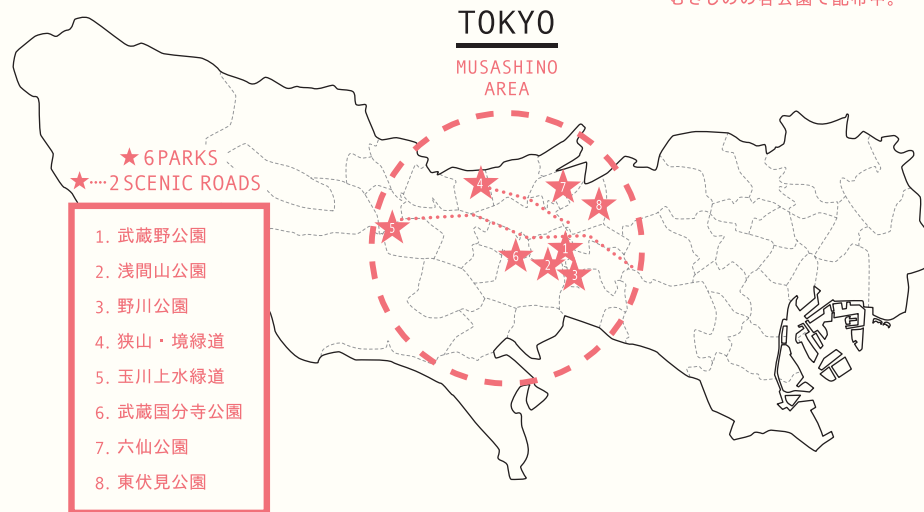
## 西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめます

構成団体：西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズノスポーツサービス(株)・(一社)防災教育普及協会



「むさしのの公園周辺ガイド  
-国分寺崖線 野川上流エリア編-」  
むさしのの各公園で配布中。



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com>

発行日：初版 2016年4月1日 / 第2版 2021年1月15日

デザイン：川上 明子

写真：NPO法人NPObirth / 井上 茂 (P2-P3、P6-P7、P12「はけの森美術館」)

協力：一般社団法人武蔵野コッツウォルズ

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ/リュエル・スタジオLLP

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真/都立武蔵野公園から見た野川(撮影:宮奈 由貴子)

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINEのバックナンバーは、むさしのの都立公園のHPで見ることができます。  
<http://musashinoparks.com/magazine/>





MUSASHINO  
PARK-LIFE  
MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>